



Doctors Message

いきいき健康術 第135回

町立病院・診療所の医師や専門職員が
健康情報をお届けします。

『便潜血陽性と言われたら』

たかはし あや
高橋 彩 医師 京丹波町病院 水曜日検査担当



日本での大腸がんの現状

大腸がんは、近年急増しています。男女ともに働き盛りの40歳頃から増え始め、がんによる死者数のうち大腸がんは、「男性3位」、「女性1位」です。2020年には男女とも1位になると予想されています。

大腸がんの早期発見のために

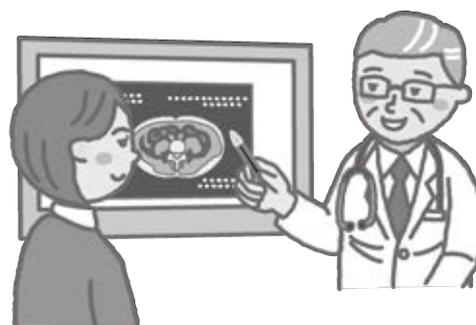
大腸がんは進行するまで、「自覚症状がほとんどありません！」症状がでた時にはすでにがんが進行していることもあります。大腸がんは早期発見・早期治療すれば、「95%以上が治ります」。だからこそ、1年に1回の検診を受けることが大切です。

便潜血検査

日本では40歳以上の男女を対象に主に大腸で出血しているのかどうかを調べる便潜血検査が推奨されています。2回検査を行い、1回でも陽性の場合「採取した便の中に血液が混じっている」ということで、大腸カメラでの精密検査が必要となります。

便潜血陽性 = 大腸がん？

便潜血検査では、1000人に約50人が陽性になると予測されています。さらに陽性者の方で大腸がんと診断されるのは、2～3%の1人から2人のみです。しかし、大腸がんがない場合でも、大腸カメラを受けることで、前がん病変のポリープの早期発見・治療につながることもあります。



40歳を過ぎたら
毎年、便潜血の検査を
受けましょう。

要精密検査となれば、
大腸カメラでチェックする
チャンス到来です！